

VISUALIZE THE FUTURE



2023年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2022年8月9日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

会社概要.....	3
2023年3月期 第1四半期決算ハイライト	
業績ハイライト.....	4
損益計算書.....	5
事業別／分野別売上高.....	6
貸借対照表.....	7
2023年3月期 第1四半期トピックス.....	8
2023年3月期 通期業績予想.....	9

世界有数のグラフィックスIPベンダーとしての創業以来の経験・知見を活かし、近年は**アルゴリズム・ソフトウェアからハードウェア**、並びに**エッジからクラウド**に亘る一貫したAIサービスの提供により、お客様や社会の課題解決に貢献しています

会社名	株式会社デジタルメディアプロフェッショナル (DMP)
設立	2002年7月 (2011年6月東証マザーズ上場, 2022年4月東証グロース移行)
所在地	東京都中野区
代表者	代表取締役会長CEO 山本 達夫 代表取締役社長COO 大澤 剛
資本金	1,838百万円
連結従業員数	69名 (2022年4月1日現在)
特許数	35件
連結子会社	Digital Media Professionals Vietnam Company Limited

IPコアライセンス事業

- ・AI/GPU IPコアライセンス
- ・AIソフトウェアライセンス



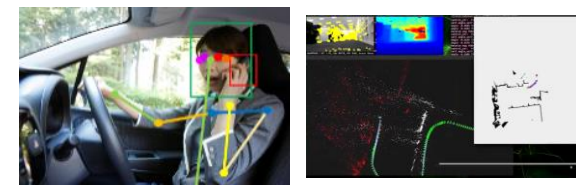
製品事業

- ・アミューズメント市場向け画像処理半導体
- ・AI FPGAモジュール
- ・協働ロボット向けビジョンシステム



プロフェッショナルサービス事業

- ・AIアルゴリズム、コンピュータビジョンソフトウェア受託開発
- ・FPGA/ボード受託開発
- ・安全運転支援システム、ロボティクスに係る顧客製品・サービス開発サポート



- 第1四半期売上高は過去最高を達成。営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失も前年同期から改善
- プロフェッショナルサービス事業、ロボティクス分野を除き、事業別/分野別売上高も伸長
ロボティクス分野のプロフェッショナルサービス事業は案件が一時的に減少（Q2以降回復予定）

全社	事業別売上高	分野別売上高	
売上高	IPコアライセンス	セーフティ	ロボティクス
387 百万円 (YoY※ +55%)	32 百万円 (YoY +30%)	26 百万円 (YoY +697%)	4 百万円 (YoY △91%)
経常利益	製品	アミューズメント	その他
△83 百万円 (YoY +12百万円)	343 百万円 (YoY +100%)	332 百万円 (YoY +94%)	24 百万円 (YoY +30%)
	プロフェッショナルサービス		
	11 百万円 (YoY △79%)		

※ YoY (Year on Year) : 前年同期比

主にアミューズメント分野の伸長により増収。利益面も改善

(単位：百万円)	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	増減額
売上高	250	387	+137
営業利益	△95	△89	+6
経常利益	△95	△83	+12
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△96	△84	+12

- ロボティクス分野におけるプロフェッショナルサービス事業の一時的減収があったものの、主にアミューズメント分野の伸長により54.7%増収。営業損失も改善
- 為替差益の計上もあり、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失も前年同期比改善

- ・ セーフティ分野は、ドライブレコーダーを活用したADAS/DMSに加えて、より広範なセーフティ分野にビジネス領域拡大
- ・ ロボティクス分野は、第2四半期以降、製品事業、プロフェッショナルサービス事業を中心に拡大見込

●事業別売上高

IPコアライセンス事業 **32百万円** 前年同期 25百万円

- デジタル機器向けGPUランニングロイヤリティ、セーフティ分野/ロボティクス分野におけるリカーリング収益、メンテナンス・サポート収入等を計上

製品事業 **343百万円** 前年同期 171百万円

- RS1の量産出荷売上および業務用車両の周辺監視用途ZIA C3キットの量産出荷売上を計上

プロフェッショナルサービス事業 **11百万円** 前年同期 53百万円

- セーフティ、ロボティクス、アミューズメント分野の受託開発サービス収入を計上
- ロボティクス分野の顧客案件が一時的に減少

●分野別売上高

セーフティ分野 **26百万円** 前年同期 3百万円

- ドライブレコーダー関連のリカーリング収益（ランニングロイヤリティ、サブスクリプションフィー）、プロフェッショナルサービス収入を計上
- 業務用車両の周辺監視用途ZIA C3キットの量産出荷売上を計上

ロボティクス分野 **4百万円** 前年同期 57百万円

- サブスクリプション収益の計上を開始
- プロフェッショナルサービス事業における顧客案件が一時的に減少

アミューズメント分野 **332百万円** 前年同期 171百万円

- RS1の量産出荷売上を計上

その他分野 **24百万円** 前年同期 18百万円

- デジタル機器向けGPUランニングロイヤリティが増収

自己資本比率は87.1%と高水準を維持

(単位：百万円)		2022年 3月末	2022年 6月末	増減額	主な内訳
	流動資産	2,784	2,992	+208	現金及び預金 +105, 売掛金及び 契約資産 +61, たな卸資産 +40
	固定資産	688	471	△216	投資有価証券 △199 ソフトウェア △13
資産合計		3,472	3,463	△8	
	流動負債	358	430	+71	買掛金 +94
	固定負債	18	18	+0	
負債合計		376	448	+71	
純資産合計		3,095	3,015	△79	利益剰余金 △84
負債・純資産合計		3,472	3,463	△8	

アミューズメント分野、セーフティ分野で安定的な収益を獲得するとともに、ロボティクス分野における収益化/利益化の取り組みを加速・強化

ロボティクス分野

- 高付加価値化の取り組み
大阪市の支援によりATC（アジア太平洋トレードセンター）施設において、自動・自律運转向けソフトウェア「ZIA MOVE」を組み込んだ自律走行ピッキングロボットの実証実験を実施（7月～9月）
- 協働ロボット向けCambrianビジョンシステムのビジネス拡大
自動車産業における生産ラインへの投入検討など、最終顧客の省人化や生産性向上に向けた複数の具体的案件に進捗

セーフティ分野

- ドライブレコーダーを活用したADAS/DMS
既存プロジェクトからのリカーリング収益を獲得するとともに、顧客の新規プロジェクト向けにIPコアライセンス、プロフェッショナルサービスを提供
- 業務用車両の周辺監視用途にZIA C3キットを量産出荷

アミューズメント分野

- 大型受注（2022年4月以降顧客納入予定1,602百万円）に対応したRS1出荷継続
- 引き続き当社のユニークな2D・3D統合チップであるRS1の優位性を発揮できる市場セグメントにおけるシェア拡大を目指す

その他分野

- リアルタイム性、カスタマイズ性が評価され、エッジAIプロセッサ「ZIA DV720」がTVS REGZAのテレビ「レグザ」の新商品2シリーズに採用。今期より、ランニングロイヤリティ計上予定

5月13日公表の通期業績予想に変更なし

(単位：百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
売上高	1,667	2,370
営業利益	△126	25
経常利益	△122	25
親会社株主に帰属する 当期純利益	△157	20

- 第1四半期は主にアミューズメント分野の伸長により増収、利益（損失）水準は前年同期から改善
ロボティクス分野におけるプロフェッショナルサービス事業の一時的減収は通期業績予想に織り込み
- 第2四半期以降、アミューズメント市場向け画像処理半導体「RS1」の量産出荷を継続するとともに、
セーフティ分野におけるライセンス収入、プロフェッショナルサービス収入の拡大、およびロボティクス
分野における製品事業、プロフェッショナルサービス事業の拡大を見込む

<お問い合わせ先>

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: <https://www.dmprof.com/jp/ir/>

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。